薬師如来坐像

釈迦三尊像の東側に設置されている薬師如来の像は、聖徳太子の病に苦しんだ父、用明天皇（518〜587）を弔うための像である。

この仏像の光背に記された銘文には、即位したその年（586 年）に病気になった用明天皇は、この像の制作を命じたが、その完成を見ることなく死去した、とある。銘文はさらに次のように続く。「彼の妹である推古天皇と、息子である聖徳太子が、その遺志を継いだ。像は推古天皇の治世 15 年目に完成した」。これにより、この像が造顕されたのは 607 年頃であると推定されている。